

● 優秀賞

地域のよさから生まれた思いを表現し発信する 図画工作の実践

福岡県福岡市立有田小学校 ばばまゆみ
馬場真弓

1 主題設定の理由

子どもは身近なものや人とのかかわりから学び、また自らかかわることによって成長していく。それは図画工作科においても例外ではない。しかしこれまで子どもとのかかわりに関係なく、教師の思いだけで題材を提示していたことを反省する。その時、子どもは教師の思いを懸命にくみ取り、忠実に表現していく。あたかも指導が徹底したかのような錯覚に陥り、教師は満足してしまう。しかし、大切にされるべきものは、子どもの思いのほうであり、思いは教師がくみ取るものである。造形活動は、もっと子どもの心の中からわき出る表現欲求を中心に、展開されるべきものとする。

図工が苦手な子どもに目をやると、「何をどう表現すればいいかわからない。」という答えが多いことから、自分の表現の思いを持ちえていない実態が見える。題材が子どもから離れていたり、思いをふくらませる手だてが十分でなかったために、強い表現の思いに支えられた造形活動になっていなかったのだ。

これに対し、地域のよさを生かした社会科学習や総合学習では、生き生きと活動する子どもたちの姿がある。それは題材が子どもに身近で、一人一人の思いが学習に生かされているからである。さらに、学んだことが地域の中で生きて働くことで、子ども自身が学習の手ごたえを感じているからと考える。

子どもは地域の中で育つ。地域学習で育ま

れた思いを図画工作科につないで題材を開発すれば、子どもは表現の思いを豊かにふくらませることができるであろう。そして表現した思いを地域に向けて発信することで、表現の手ごたえと喜びを味わうことができる。地域で生まれた自分の思いを表現し発信することを通して、まさにものや人とのかかわりから成長する子どもの姿が期待できるのである。

以上のような考えから本主題を設定し、4年生の図画工作科の実践を試みた。

2 実践の具体的な考え

(1) 思いを育む地域のよさを生かした 関連カリキュラムの作成

地域のよさを生かして他教科や総合学習と図画工作科を関連させることで、子どもの思いや意欲は連続・発展していく。さらに地域と多様なかかわり方ができたり繰り返しかかわることが可能となったりして、一人一人のペースで表現の思いを育むことができると考える。

小学校のある有田は、江戸時代栄えた白壁の町並みが今も残る、歴史のあるそして地域の温かな結びつきが残る町である。宅地化が進む中で自然も多く、学校の近くを流れる室見川は、春の桜並木や冬の渡り鳥など、四季を通じて人々の心を和ます河畔公園となっている。そこで人々の温かさと豊かな自然という地域のよさを生かして、室見川をテーマに関連カリキュラムを作成していった（資料1）。

	子どもの思い	教科・総合・行事
4月	・室見川の水を飲んでいるなんて知らなかった。	社会「くらしと水」 ・私たちが飲んでいる水はどうやって作られているか調べる。
	・室見川のススキや生き物を1年間観察すると変化が分かるかな。	理科「季節と生き物（春）」 ・身近な植物と環境のかかわりを調べる。
5月	・1年間、室見川でどんな活動をしようかな。	総合「室見川で〇〇したい」 ・自分の課題を見つけて活動を計画する。
	・川で昔は洗い物をしてたんだな。 ・カワニナや蜚に興味が出てきた。	総合「楠原さんに川のお話を聞こう」 ・室見川の歴史や水棲生物のことを知る。
9月	・水の力ってすごいんだな。 ・土を削って有田まで運んできた。	理科「流れる水の働き」 ・水が土地を変化させる働きを調べる。
	・室見川で図工ができるなんて驚いた。 ・とても気持ちがよかった。 ・石や花を使って楽しかった。	図工「室見川のふしぎな生き物のすみか」 ・室見川の思いから想像を広げ、場所や自然材を生かしてすみか作りを楽しむ。
10月	・魚を捕まえる仕掛けを調べたい。 ・水の汚れや水の流れを調べたい。 ・クモのことをもっと調べたい。	総合「室見川で〇〇したい」 ・自分の活動を振り返り、さらに深まった課題を追求する。
	・自然材はいろんなよさがある。 ・自然材でこんなことができたよ。	図工「自然はげいじゅつ家」（立） ・材料から思いついた造形活動を楽しむ。
	・地域の人に見てもらえて嬉しい。 ・自然の中に作品を置くといいね。 ・友だちはこんな生かし方をしている。	■創意「室見川アート展をしよう」 図工「広がる室見川アート」（鑑） ・材料の生かし方のよさを見つける。
11月	・作品をほめてもらって嬉しい。	■創意「アート展のお礼を伝えよう」 ・手紙を届けたり、掲示したりする。
	・室見川のことがたくさん分かった。 ・地域の方に発表できて嬉しいな。	■総合「室見川発表会をしよう」 ・室見川での気づきをみんなに伝える。
	・ススキは穂がふくらんでいる。 ・コオロギが大きくなっている。	理科「季節と生き物（秋）」 ・ススキや昆虫の変化を調べる。
	・上流は水がきれいで石が大きい。	遠足「室見川の上流に行こう」
	・昔は洪水で苦しんでいたんだ。 ・有田のために命をかけた人がいた。	社会「郷土の発展につくした人々」 ・義民松尾庄屋を調べる。
12月	・ヨモギで葉書が作れて驚いた。 ・いい匂いの葉書を喜んでもらいたい。	■創意「ヨモギで作った年賀状を送ろう」 ・年賀状を送り、感謝の気持ちを伝える。
1月	・近くで白サギが見られて嬉しい。 ・たくさんの渡り鳥に驚いた。 ・枯れてると思ったら芽が出てたよ。	理科「季節と生き物（冬）」 ・室見川のススキなどの変化を調べたり、渡り鳥を観察したりする。

■は地域への発信の取り組み

●資料1／地域のよさを生かした関連カリキュラム（室見川をテーマに/4年）

(2) 子どもの思いを見とり支援する カルテやポートフォリオの作成

教師は子どもがどんなことに心を動かされてどう表現したいと思っているのかをつかみ、その実現を願う姿勢で支援していくことが大切だと考える。そこで授業カルテを作成し、図工ノートで把握した子どもの思いやこだわり、つまずきなどから、個に応じた支援を考えるようにした。これは事前に評価基準を設定してチェックリストを設けることで、作品の出来映えに教師が引きずられることなく、評価場面を広げることができる。

またこれまでの図工に対する意識や、どんな材料や用具を体験し習得しているのか、どんな表現を好み願うのか（造形表現におけるメタ認知）など、一人一人の姿をとらえるために、個人カルテやポートフォリオを作成していく。

(3) 表現した子どもの思いを 地域に発信する鑑賞活動

鑑賞活動により子どもは自分の思いを温めたり、お互いによさや思いを交流したりして、表現の喜びを実感する。そこで鑑賞活動の舞台を、今回は地域のさまざまな人々と触れ合える室見川の河畔に設定する。「室見川の自然のよさ」を共有する温かな地域の人に自分たちの思いを発信することで、表現の喜びと手ごたえを感じ取ることができると考えた。

3 研究の実際

(1) カルテ作成によって把握した 子どもの実態と実践の考え

まず4月に図工の意識調査やこれまでの材料・用具などの経験の聞き取りを行い、個人カルテを作成していった（資料2）。作成することで自然と一人一人に教師の目が向けられていく。

このクラスは3年生の時の荒れのため4月

で担任が替わった経緯があり、乱暴な言動が目立つ落ち着きのない学級である。しかし、一人一人の子どもたちを見つめていくと、好奇心旺盛で創造性豊かなよさを見とることができた。

また、多様な材料の体験はあるが、自然材を使った体験は少ないことも分かった。そこで、室見川をテーマに題材を考える時、その自然を十分に生かした創造活動にしたいという気持ちが強くなった。思いが持てない子どもでも、自然の素材とじっくりかかわることで、材料が持つ造形要素の美しさや楽しさから、思いをふくらませることができると考えたのである。

またポートフォリオから、材料感覚の高まりを実感できていない実態をつかむことができた（資料3）。そこで、室見川での造形遊びと立体に表す題材をつないで、自然材のよさを十分味わえるような造形活動にしていこうと考えた。

(2) 「室見川のふしぎな生き物のすみか」 の実践

■学習の主題と題材の価値（9月造形遊び）

「ふしぎな生き物のすみか」から発想を広げ自然の材料や場所の特徴を生かして遊ぶ。」
・理科や総合学習で深まった室見川への愛着や思いとつないだ表現活動が展開できる。
・河原や浅瀬などの場所や石などの材料から発想して、主体的な造形活動が展開できる。

■学習の実際

① 自然が解きほぐしていった子どもたちの心

4月当初は席に着かず、学習に集中できない子どもたちだったが、室見川に連れだすと、実に生き生きと昆虫や植物の観察に取り組むことができた。そして総合学習では自分の追求課題を見つけるために、室見川とふれあう体験を重ねていった。

花を摘んでは花束にする子や無心に魚を捕まえる子など、皆はじけるような笑顔を見せ

個人カルテ

4年1組（

）

〔一般的な特性〕 顕著に認められるものに○

集中力	客観的	理性的	繊細	自主性	個性的	自己中心的	自己主張	好奇心旺盛
創造性	主観的	感情的	おおらか	計画的	持続力	社会発達性	他者容認	

〔図画工作科における特性〕 自己評価の変容（左）と教師の評価（右）

		自己実現		主体性		発想		構想		線描切断		彩色接合		自己容認		よさの感受		承認		意欲	
絵や 立体	4月	4	◎	3	○	3	○	4	△	3	△	3	◎	3	◎	4	◎	4	○	3	◎
	2月																				
つくる	4月	4	◎	3	○	4	◎	2	○	2	○	3	◎	2	○	4	○	4	○	4	◎
	2月																				
造形 遊び	4月	4	○	4	◎	4	○	3	○	4		○		4	○	4	○	4	○	4	◎
	2月																				

〔表現の傾向〕 ○と◎で記入

題材名	関心意欲態度	発想構想力	創造的な技能	鑑賞の能力	評価	備考 (子どもの思いやよさ)
絵になった文字たち (造)	◎	◎	○	○	A	人と違う表現。彩色が美しい。
忘れられない日 (絵)	○	○			B	線描が固い。彩色は丁寧。
クルクルランド (つ)	◎	○	◎	○	A	丁寧でしっかり接合できる。組み立てが良い。
友だちといっしょ (立)	◎		◎		A	粘土で表現することを楽しむ。
再生！ バルブドリーム (つ)	◎		○	◎	B	材料感覚の高まりが素晴らしい。
室見川のふしぎな生き物のすみか (造)	○	○		○	B	砂地を掘り、自分だけの表現をする。
自然はげいじゅつ家ー広がる室見川アート (立)	◎	○	○	○	A	砂にボンドを混ぜたり、石の模様を生かす。
()						
()						

〔所見〕

線描の表現は固いが、色彩感覚や材料感覚が優れており、認めて伸ばしていきたい。

目立たないが、自分の表現の思いをしっかり持ち、進んで表現できるようになった。

●資料2／子ども一人一人の姿をとらえる個人カルテ

てくれた。そして「砂に白サギの足跡があるよ！」といったさまざまな気づきに目を輝かせる姿を見せたり、体験を重ねながら、活動のルールも身につけたりして、しだいに授業態度も落ち着いてきた。また教室にはつかまえたフナの世話を熱心にする姿があり、自然から学ぶ楽しさを体感できた子どもたちは、学習に対する姿勢も以前とは違ってきた。

②教師の活動提案に思いをふくらませる

室見川の生き物に思いを寄せている子どもたちに、「室見川には今まで知らなかった魚やクモに似たヤゴもいたね。もしかしただ

れも知らない未知の生き物もいるかもしれないよ。」と語りかけていった。するとすっかり想像の世界に引き込まれている子どもも半数いるが、後は半信半疑の様子である。しかし「すみかを作ってあげたら、姿を現してくれるかもしれないよ。」と誘いかけると、「俺、すごい家作っちゃあ。」とのってきた。どうも現実の生き物のすみか作りに意欲を燃やしているようである。

想像の生き物のすみか作りを自由に楽しんで欲しいと考えた教師の思いとはずれてしまったが、いずれにしろどんな活動をしてくれ

表現の足あと (3)
名前 _____

やったことがあること

○遊び…ちまき、たのび、おどろ、なまこ、おど、身にまとう、かたぬき、つつむ、**遊ぶ**、**遊ぶ**、粘土を糸で切る、その他()

自己評価	題材名 自然はげいじゅつ家 (土)		
1. 最後までがんばって(楽しんで)取り組めた。	よくできた (土)	よくできた (土)	よくできた (土)
2. 進んで材料や用具の準備ができた。	① _____	_____	_____
3. 表したいことや、つくりたい自分の思いがもてた。	① _____	_____	_____
4. くふうをして、表したりつくったりできた。	① _____	_____	_____
5. 思い通りに表したりつくったりできた。	① _____	_____	_____
6. 自分のがんばりやよさに気づいた。	① _____	_____	_____
7. 友達の実現や資料を見て、よさやくふうに気づいた。	① _____	_____	_____
8. 材料や表現のよさ、美しさ、道具を使う楽しさに気づいた。	① _____	_____	_____
学習した感想や気づいたこと	おもしろい作品 いろいろある かいてみる ておもて なからたは		



●資料4/
S子たちの
ハート型の
すみか

う喜びの感想が多く書かれていた。「砂で固めたり、花で飾ったりするといいと気づいた。」という言葉からも、子どもたちが室見川のよさを造形的な観点でとらえるようになったことが分かる。気に入った石を熱心に集めたり、浅瀬の砂の中から粘土質の土を見つけて大喜びしたりする子どもたちの姿や、ポートフォリオの変化から、材料感覚の高まりを実感した実践となった。

所を選んだため、壊れないようにするにはたくさんの石を必要とする。そこで4人が協力して黙々と石を運び、頑丈に積み上げていった。よく見ると丸く積んだように見えた形は、実はハート型になっている。澄んだ水の中にくっきりと見える石積みのすみかは、なんとも美しく涼しげである。

「先生、本当に魚が入ってきてくれたよ。」と嬉しそうに話すS子たちとともに、すみかの完成を喜んだ(資料4)。

④ 自然材の造形的なよさや可能性を感受する

すみか作りをした思いを温め、材料感覚の高まりを確かめるために、鑑賞カードにすみかの写真をはったり、感想を書いたりしていった。そこには「室見川で、こんなに楽しい図工ができると思わなかった。」とい

(3)「自然はげいじゅつ家 —広がる室見川アート」の実践

■学習の主題と題材の価値(10月立体)

「室見川の自然材から思いついたり想像したことを、材料のよさを生かして立体に表す。」

- ・室見川の造形的なよさを生かした表現活動と材料感覚の高まりが期待できる。
- ・アート展開催により、自然材との対話から生まれた表現の思いを地域に発信できる。

■学習の実際

① 自然材のよさを生かして造形活動をするよう提案をする

造形遊びの後、子どもたちは理科や総合の学習で室見川を訪れるたびに、気に入った石や流木を持ち帰り、材料の宝箱に入れておいた。

秋風がさわやかに吹き、ススキの穂や葎の

ストローも収集できたころ、「みんなが集めた石や流木は自然が作った芸術品ね。これにみんなの想像力を加えて、室見川アートを作り上げよう。」と提案した。自然材のよさを生かしてどんなことができるかを自分たちで考えていくことを告げると、好奇心旺盛でエネルギー溢れる子どもたちは、俄然意欲を燃やした。

② 材料との対話から創作の可能性が広がる

活動提案をした後で材料収集のために訪れた室見川では、こだわりを持ちながら材料見つけに熱中する子どもの姿があった。

「見て！この石透明で光っとうよ。」「俺、ススキの穂がすべすべしとるけん、好きちゃん。」とおしゃべりをしながら、大事な宝物のように材料を集める子どもたちを見てみると、喧嘩が絶えず叱ってばかりいたころが信じられない思いがする。こんなにも自然の

材料の美しさやよさに素直に反応し瞳を輝かせる子どもたちの姿に、感動してしまった。そしてそのみずみずしい感性で、いったいどんな造形活動を作りだしていくのか期待が高まった。

教室に戻ると、早速集めた材料を磨いたり切ったりして、さらに対話を深めていった。そうして発見した材料のよさや可能性、さらに難しさなどを含めた思いを共有するための交流も行った。

例えば石は形や色のほかに重さや頑丈さというよさを持っている。重さがあるから積めるのだが、この特性をつかんでいないと、子どもは横に接合しようとして、重さのためにうまく接合できない。この題材はこのような材料との対話が重要な意味を持つ。じっくり対話することで子どもたちは、「流木は軽くてすべすべしているから、壁飾りが作れそ

関心・意欲・態度	①自然の材料の形や色・手ざわりなどから想像した自分の思いを持つ。 ②結んだり組み合わせたりしながら、自然の材料のよさを生かして形を生み出す活動を楽しむ。
発想・構想	③材料体験しながらどんな活動ができるか思い浮かべたり、表現したものからさらに想像したりする。 ④材料に合った接合方法や思いにそった付加材料を、考えたり準備したりする。
創造的な技能	⑤自分の思いに合わせて、接合方法や用具を選択し、使いこなしている。 ⑥自然の材料のよさの生かし方を、自分なりに工夫して表現している。
鑑賞	⑦自分と友だちの表わし方の違いに気づいて、よさを感じている。 ⑧自然の材料の美しさや楽しさに気づき、そのよさを生かす造形活動の楽しさを味わう。

名前	思い	関心		発想		技能		鑑賞		発想・構想	表現	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
	ブランコのある みんなの公園	◎	○			○		◎	◎	透明な石を見つけ、木を切り、 材料のよさを感じる	A 石の生かし方を賞賛	◎ 石を並べて池を作る
	夜の森	◎	○			○		◎	◎	木やススキにこだわりを持つ	A ススキの生かし方を 賞賛	◎ 粘土を使って接合する
	夜の森	○	◎			◎				◎ ススキや石のよさを生かす	A C土台の板を紹介	◎ 材料がいっぱいで嬉しい
	ブランコのある みんなの公園	◎	○		○	◎	◎	◎	◎	室見川の自然材のよさを感じ受 木の皮がついた板を使う	A 自然材のよさを共感	◎ 丁寧に接合して池を作る
	砂と貝で 川の中の世界	○	◎	◎				◎	◎	木が思いどおりに切れない 石や水草を生かしたい	C 水草の生かし方を 助言	◎ ペットボトルに水を入れる
	トトロのなかま たちの森	◎		○		◎	◎	◎	◎	◎ 室見川の白サギを作りたい	C D石と枝の接合	◎ 白サギの池を表現
	自然の世界	○		○		◎		○	◎	◎ 流木のよさを生かそうとする	B C 万力とのこぎりの 使い方	◎ のこぎりを上手に使う
	どんぐり公園	○		○	◎			○	◎	◎ 流木の手触りを楽しむ	B 万力とのこぎりの 使い方	◎ 木をどんどん切断する

●資料5／一人一人の思いや願いを見とる授業カルテ（「自然はげいじゅつ家―広がる室見川アート」）

名前	思い	関心		発想		技能		鑑賞		発想・構想	表現	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
	ブランコのある みんなの公園	◎		○		◎		○	◎	アイデアスケッチを楽しむ 石はいろいろな形がある	A C石のよさの感受を賞賛	◎ 友だちと相談して楽しむ
	石のはにわ	○	◎		◎	◎		○	◎	きれいな石が見つかった	D 紙粘土の提案	◎ ビンに紙粘土をはり、 枝や石をつけていく
	どんぐりたちの家	○	○		○	◎		○	◎	2つの色の石があった すごいなあ	A 材料の生かし方を 賞賛	◎ 砂にボンドを混ぜる 思いどおりに表現できる
	トトロのなかま たちの森	○	○		○	○	◎	◎	◎	石の色や形を生かしたい	B 万力とのこぎりの 使い方	◎ 白サギを作ろうとする
	トトロのなかま たちの森	○	○		○	○	○	○	◎	木や枝の手触りから発想	A 楽しい物語を賞賛	◎ のこぎりで進んで切断
	どんぐり兄弟の バイキング屋さん	◎	○	◎		○	○	◎	◎	楽しい物語を想像する	C 土台の板を紹介	◎ どんぐりを人に見立てて 想像を広げる
	ブランコのある みんなの公園	◎	○	○		○	○	○	◎	アイデアスケッチを楽しむ ストローから水を流したい	A ストローと水の使い方	◎ 石を丁寧に接合
	楽しい自然の家	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	色や形の違う石や土に 興味を持つ	A C思いのよさを賞賛	◎ 自分の思いで主体的活動
	夜の森	○				○	○	◎	◎	ススキや葉などいろいろな 材料を選ぶのが楽しい	A 自然材のよさの感受	欠席
	砂と貝で 川の中の世界	○				○	◎	◎	◎	水の底を作る計画がうまく いかない	C 水草の使い方を助言	◎ 砂を集めてなかったので 思いどおりにいかない
	砂と貝で 川の中の世界	◎	○		○	○	○	○	◎	アイデアスケッチがうまく 描けない	A C水草を使うよさを賞賛	◎ 砂の代わりに木屑を使う
	枝を結んで作る みんなの遊び場	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	木を切るのが楽しい	B 万力とのこぎりの 使い方	◎ 木の形を生かして糸で 結んで橋を作る
	土や流木で作る アスレチック*	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	透明な石や枝集めに熱中	A B糸のこの使い方	◎ 粘土で枝を立てる
	黄金の露天風呂	◎	◎		◎		○		○	台の板を自分で進んで準備	A Dボンドの量	◎ 石を並べて道を作る
	みんなの アスレチック			○		◎	◎	◎	◎	いろいろな材料を見つける	C 土台の板を紹介	◎ 自分だけの飾り物
	黄金の露天風呂	◎	○	○		○		◎	◎	ススキの穂が気に入る 石や花があって役立つ	A B C ボンドの量の支援	◎ 彫刻刀で名前を彫る 協力がうまくいかない
	石と木の世界	◎	○			○		○	◎	糸のこで木を切るのが楽しい	C 家を作る思いのよさ	◎ 材料の生かし方を助言
	木いっぱいの家	○	◎	◎				○	◎	枝や木で大きな作品を 作りたい	C 土台の板を紹介	◎ 紙粘土を使って接合
	森のなかまたち	○	○	○		◎		○	◎	枝で橋を作りたい	D 石と枝の接合	◎ 木を切る活動を楽しむ 自分の思いで主体的活動
	土や流木で作る アスレチック*	◎	◎		○	◎		○	◎	透明な石や粘土に喜ぶ	A D枝の接合	◎ 粘土を使って枝を立てる
	ジャングルジム	○	○		◎			○	◎	うまく木が切れた、石は 重いから積み重ねられる	D 家の屋根の接合	◎ ススキで屋根を作る 粘土で枝を立てる
	土や流木で作る アスレチック*	○	◎	○	○			◎	◎	透明の石の美しさを感じ	A 材料の生かし方を賞賛	◎ 木を切る活動を楽しむ 自分の思いで主体的活動
	黄金の露天風呂				○			○	◎	自分らしい思いが持てない	A B枝を切るモデル演示	◎ 枝を切る活動を楽しむ
	森の露天風呂	○		○		◎	○		◎	パチンコのような枝が楽しい	C D枝をボンドで接合	◎ ボンドの量に苦労する
	枝を組み合わせた すべりだい	◎	○		◎		○		◎	枝を集めて満足する	B 枝の接合	◎ 穴をあけて枝を立てる
	川の植物	◎		○				○	◎	糸のこで上手に木が切れた	C 土台の板を紹介	◎ 木を切ったりはったりして 楽しむ

主な支援 A：思いのよさの賞賛 B：用具の提案や使い方の指導 C：付加材料の提案や準備 D：接合方法の提案やモデル演示

う。」とか「(葦のストローをつないで) いかだで川を冒険するよ。」などと、どんどん思いや想像をふくらませていったのである。

③材料のよさから生まれる さまざまな室見川アート

対話を通してどんな材料のよさに心動かされ、どんな造形活動をしようとしているかを見とり、授業カルテを作成していった(資料5)。すると「自然のアスレチック」を作る子どもや「トトロのキャンプファイヤー」の物語を想像している子どもなど、さまざまな思いや願いをつかむことができた。

そこでこの思いの実現を支えるために、自然材の接合と切断の方法のモデル演示と資料提示を行う一方、小刀などを揃えた用具コーナーや必要な材料を補う材料コーナーなどの場の支援を行った。

子どもたちの様子を見ると、自然材を使っ



●資料6／自然材を生かして「遊びの広場」を表現する



●資料7／地域に発信したアート展

て作ること自体が楽しくてたまらない感じで、次から次へと想像をふくらませながら意欲的に表現していった。流木を大木に見立てて秘密基地を作る子どもや、石を並べて露天風呂を作る子ども、粘土質の土や枝、ドングリなどさまざまな材料のよさを生かして遊びの広場を作る子どもなど、どの作品にも子どもらしい夢や願いがあふれていた(資料6)。

自然材の魅力が創作意欲を引き出し 自己評価を高めたK子

K子は図工に対する苦手意識があったので、思いのよさを認めて励ましてきた。そして今回は室見川の砂や水草、さらに水までも生かして、表現することを楽しむことができたのである。ポートフォリオにも、絵が嫌いで主体的に準備できなかったK子が、7月の題材では、パルプのおもしろさやよさから表現の楽しさを感じ取った姿が見てとれる。さらに今回も、自然の材料で作る魅力に引き込まれ、自己評価を高めていった様子が記されていた(資料3)。

④思いの発信に手ごたえを感じたアート展

アート展に向けて交流のある老人クラブの方に招待状を書いたり、作品を楽しく鑑賞してもらうためのクイズを書いた名札を準備したりして、当日を迎えた。

青空の下、自然の中に展示された作品は、いっそう自然材のよさを伝えてくれる。「いいところ見つけカード」を交換して鑑賞していた子どもたちも、「先生、(野外の展覧会って)なんかいい感じだね。」とそのよさを味わっていた。中にはクモを自分の作品にのせて、綱渡りをさせる子どもなど、自然の中ならではの鑑賞を楽しむことができた(資料7)。

散歩やジョギング途中に足を止めて見てくださる方や老人クラブの方がとても温かい言葉でほめてくださることに、子どもたちは感動していた。「子どもたちの創造力に感動しました。」「心が洗われました。散歩道を楽し

図工が苦手だった前述のK子も、アート展を楽しみにしていたことや、友だちが使った材料に興味を抱いた様子を感想に書いてきてくれた。初めての野外での展覧会、しかも地域に自分たちの思いを発信する体験に、子どもたちはとても興奮し、心地よい充実感を味わっていた（資料8, 9）。

地域のよさを生かして他教科と関連させた一番の成果は、室見川に対する子どもの思いをこめた造形活動ができたことである。そして自然の持つ開放感と造形美が子どもの表現欲求を揺り動かし、心の中からわき出る表現活動を作り出していったのである。もちろん一人一人の思いや願いを見とって支援するためのカルテやポートフォリオの作成は、非常に有効であり不可欠のものであった。

関連カリキュラムは、まだ半分を残している。子どもたちが見つけた粘土質の土を使い、地域の博多人形師の方に教えていただきながら、焼き物の学習ができないかと、今、模索している。このようにカリキュラムの検討の余地はまだまだ残されている。さらに子どもの心からの表現欲求を大切にした図画工作科の指導のあり方を追求していきたい。

●資料8／K子の感想文

- 資料9／アート展に寄せられた地域の方の声